

伝統ある日本の  
ヒップホップ、  
きみもやってみないか？

# 大募集

12月の毎週水曜日、午後5時から、  
「紙漉きの里」にてワークショップを  
開催します！

獅子舞に興味のある方は  
ぜひご参加を！！

※年齢・性別・居住地不問

問い合わせ：相馬地区地域おこし協力隊・加賀  
(相馬総合支所総務課)

☎：090-3102-6110 (地域おこし協力隊直通)

✉：souma.chiikiokosi@gmail.com



KAMISUKISAWASISIMAI

見学だけでも  
OK!

# 紙漉沢獅子舞とは？



## ～獅子舞って？～

獅子舞は東アジアや東南アジアで見られる民俗芸能で、地域によってはライオン・ダンスとも呼ばれます。日本には、6世紀ごろに仏教とともに伝わったようです。強い獅子（ライオン）の被り物をかぶって囃子に合わせて踊り、邪気を払ったり疫病を退治したり、五穀豊穡・家内安全を祈祷します。人数や踊り方は地域のよってさまざまで、日本の伝統芸能のなかでもっともバリエーションの多い芸能だとも言われます。なお、紙漉沢の獅子舞は、権現獅子、雄獅子2頭、雌獅子1頭、オカシコ（道化役）で構成されます。

## ～なぜ頭を噛むの？～

獅子舞では、獅子頭が観客の頭を噛む光景がよく見られます。獅子に噛まれると、邪気が取り除かれ1年を無事に過ごすことができる据说されています。また、「噛みつく」＝「神がつく」という語呂合わせから、とても縁起の良いことだとも言われます。



## ～紙漉沢獅子舞の歴史～

かつて相馬地区には、紙漉沢、黒滝、湯口、相馬の4組の獅子舞がありました。しかし、現在活動しているのは紙漉沢獅子舞しかありません。紙漉沢にいつ獅子舞が伝わったのかははっきりとしませんが、一説には、南北朝時代末期の元中2年（1385）ごろ紙漉沢に来られた長慶上皇のお供の人から伝えられたとも言われています。



## ～藩主に褒められた紙漉沢獅子舞～

江戸時代のこと、弘前藩主の御前で獅子舞を披露する演舞会がありました。他地域の組が張り切っていつもより力を込めて荒々しく演じるなか、紙漉沢組は普段通りの上品で気品ある踊りを披露しました。藩主はその礼儀正しい踊りをたいそう気に入られ、褒美に絹の幕を与えたそうです。

**活動予定：旧暦8月5日の獅子おこし、旧暦8月15日の十五夜獅子奉納のほか、元旦の町内まわり、相馬中学校演舞、その他競演会出場などを予定。**